

# 自 己 評 価 書

(平成30年度)

平成31年2月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	2
	1. 教育課程・指導	2
	2. 保健安全管理	11
	3. 組織運営	14
	4. 研究と研修	17
	5. 教育環境整備	21
	6. 教育実習	23
III	自己評価別添根拠資料一覧	28

## I 学校の現況及び目的

### 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成  
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級  
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成30年5月1日)  
幼児数130人 教員数10人(正規教員)

### 2 目的

#### (1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

#### (2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

#### (3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

#### (4) 平成30年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究の成果を生かし、実践の質的向上を図る。
- ③大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

#### (5) 評価項目

##### ①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン(教育課程・指導計画)作成に関する取り組み状況

##### ②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

##### ③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

##### ④研究と研修

- ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
- ・教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
- ・地域住民への貢献

##### ⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

##### ⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

## Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

### 評価項目 1 教育課程・指導

#### (1) 観点ごとの分析

##### 観点 1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

###### 【観点に係る状況】

幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成している。平成29年3月に改訂された幼稚園教育要領では、各領域における「ねらい」に加えて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を明示し、幼、小、中の学校教育間の接続の可視化に努めている。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「言葉による伝え合い」、「協同性」、「豊かな感性と表現」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」などの項目は、中期目標（No.48）に掲げた一貫型教育プランの「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」でも重視しているものである。

今年度は新幼稚園教育要領の改訂趣旨を踏まえて「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」を修正し、指導事例集を作成した。

###### 【分析結果と根拠理由】

「生活プラン」の月別指導計画シートを作成し、毎月これを活用した全体打ち合わせと指導の評価を実施し、カリキュラムマネジメントを行うとともに、指導事例を集積した。

平成30年度附属幼稚園オープンスクール（来園者172名・アンケート回答者71名）のアンケート集計結果によると、本園の保育については100%の保護者及び関係者が「とてもよい」と評価している。「すべての教師が笑顔で子どもとともに遊び学んでいる。子どもたちがいきいきしている。のびのびしている。表情がよい。子どもがやりたいことをやりたいだけさせてあげている。子どもの自主性をとても感じた」などの記述からは、主体性の伸張への高評価が得られている。

教師の援助と環境の構成については、「教師が一人一人をよく見ている。子どもの意思や考えを尊重している。自由な中にもしっかりとした教育計画がある。先生が熱心。教師が子どもたちとよく関わっている。全力でサポートしてくれている。子どもが自由に自分のしたいことができる。教師の環境づくりへの心配りを感じる。季節のものを取り入れて家ではなかなかできない製作などができる。子どもの個性を生かしつつ他の幼児の個性に触発されるきっかけにもあふれている。子どもがやりたいことをとことん追求して遊ぶことができる。自然も多く園でとれたものでいろいろな作品を作って想像力をのばしている。自由がある中で、協同作業もありとてもよい」などが評価されていた。集団活動・協調性・生活習慣形成についても「伸び伸びと過ごしている時間とみんなで何かをするときのメリハリの様子が両方分かり安心した」と評価された。

教育関係者によるアンケート集計結果においても、「1. 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導について」は「大変よい」が74.7%、「よい」が25.3%と高かった。「2. 科学的思考を促す指導計画の実践について」は、「大変よい」が71.3%、「よい」が25.3%、普通3.4%と高かった。

## 平成30年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

実施日	平成30年11月11日（土）	
対象	オープンスクール参観者	172名（アンケート回答者71名）
内容	1 保育について	3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見	自由記述

### アンケート集計結果

○保育について		
・とてもよい	71名（	100%）
・あまりよくない	0名（	0%）
・どちらでもない	0名（	0%）
・記入なし	0名（	0%）
○環境整備について		
・よく整っている	67名（	94.4%）
・もっと整えて欲しい	4名（	5.6%）
・どちらでもない	0名（	0%）
・記入なし	0名（	0%）

### 保育について自由記述の概要

#### 【子どもたちの様子】

#### ★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- 子どもたちの顔がすごくよい。笑顔があふれており、とてもよい幼稚園だと感じている。
- どの学年も子どもたちが生き生きとしている。
- のびのび育っている。
- 自由でのびのびと楽しそうに活動している。いろいろなことにトライしていた。
- 子どもたちの目が輝いてとても楽しそうです。
- 子どもたちが自分のやりたい事を集中して取り組んでいたのがよかった。何気に遊んでいる中からも自分なりに考えて表現して学んでいる様子がうかがえた。
- 先生と子どもたちの良好な関係性。
- 自由な雰囲気と活発さが伝わってきた。自由保育のところ。
- 子どもが「幼稚園、自由で楽しい！大好き！」といつも言っている。
- 家ではできないようなダイナミックな遊びができて、とても喜んでいる。毎日、今日は何しようかな？と楽しそうに話すことが多くなった。

#### ★自主性・主体性・遊びを大切に

- 子どもたちが自立し、自由に様々なことを学べる。
- 子どもたちがそれぞれやりたいことを考え、自分たちで最後までできたことに喜んでる姿がとても印象的でした。
- 子どもの自主性や個性を存分に引き出してくれている。

### ★工夫・創造性

- 今、子どもに大切なこと、もの、時間をたくさん与えてもらっていると思う。
- 子どもたちが考えを出し合い、その意見や方法で、形にできる環境がとてもよかった。

### ★集団活動・協調性

- のびのびと過ごしている様子（自由な時間）と皆で何かをする時のメリハリの様子が両方分かり安心した。
- 一輪車を教えてもらえるので助かる。

## 【幼稚園・教師について】

### ★教育方針・指導理念

- 子どもたちが好きなことに集中できる環境が整っていると思う。
- 様々なアクティビティをご準備いただき、子どもたちのやりたいこと、挑戦したいことをサポートしてくださっているのがありがたい。
- 子どもの希望する遊びに対して、先生方が全力で対応してくださっていることに日々感謝している。
- 子どもたちに自立的に活動を促していく中で、子どもの中に主体性や自己決定能力など、非認知的能力につながる様々な力を育てていただいていると実感できる。
- 子どもを尊重した保育をしてくれている。子ども各々の性格やペースに合わせて見ている。

### ★季節感や自然を大切にしたい保育展開

- 自然活動が多い。
- 季節を五感で楽しむ工夫（落ち葉のお皿作りなど）を取り入れてくださる点が、本当にありがたい。
- 自然と触れ合えるような活動をたくさんしてくれている。
- 家庭ではなかなかできない遊び（泥遊び、絵の具遊びなど）ができる。

### ★教師の姿勢・指導力

- 先生方が、子ども一人一人の個性を尊重する保育をしてくださっている。子どもが幼稚園に通うようになってから、毎日楽しそうにしている。
- 個々の意思を尊重している。
- のびのびと自由だが、適切な手助けがある。
- 先生方が全力で子どもに向き合ってくれて、一人一人への気配りがすばらしい。
- 全員の先生方が温かく見守ってくださっている点が安心した。
- 子どもたちが自由に遊んでいるが、必要な時は先生方がさっと子どもの間に入ってきている。
- 子どもを大切にしてくれる。
- 子どもたちひとりひとりの思いや個性を大切にしてくれる。
- 子どもの長所をよく褒めてくれる。トラブルがあった時、子どもの話をよく聞いてくれる。
- 子ども同士でけんかをしていたとき、それぞれの子どもの言い分を先生が丁寧に聞いてくれていた。
- 一人一人をいつもよく観察してくださっている。
- 先生に活気があり、よく動き、子どもたちと一緒に楽しんで活動していたので安心した。
- 教員が同じ目線である。子ども一人一人のことをよく見て、対応してくれている。

## 環境整備について自由記述の概要

### ★全般に整備状況

- 子どもの様々な興味に対応できる環境であり、体もよく動かして元気いっぱい遊べている
- LED化が順次進められているなど、必要に応じて設備の更新があり、ありがたく思う。
- 遊具と植物（自然）がバランスよくある。いつもきれいに保たれている。
- 花壇や中庭もよく整備されている。
- ゴミもなく、花もいつもきれいに咲いている。
- 遊び道具がいっぱいあって、子どもたちが自分で考えて遊んでいた。
- ごみがなくきれいに整備されていて気持ちがいい。過ごしやすそうにしている。
- 細かい部分まで気をつけられている。
- 本が充実している。いろいろな遊びができるよう工夫してある。
- 清潔感もあり、よく整理整頓されている。
- 季節の花や、子どもに使いやすい遊具、限られた中にしっかり整って良い。
- 園庭も、転んでも大丈夫なように芝や土と、足にも優しく、走ることが楽しめる。
- 工作をする材料もそろってたり、絵本も種類が多いと感じた。遊具も多く、楽しく遊べる環境であると感じた。
- 子どもたちが毎日全力でかけまわっているのに、園庭や廊下はいつ見てもきれいで感心させられます。毎朝、敷地内の見回り、清掃や片付けをしてくださっていることについても頭が下がる思いです。
- 子ども、何かしら愛情の感じるものに囲まれ、整っている。
- 子どもたちが使いやすく、自然を大切にしたり、雰囲気もよかった。
- 遊具が充実している。

### ★自然環境が豊か、季節感・自然物の活用

- 季節ごとの花や木が、各所に配置されていて、虫などの発見がしやすい環境になっている。
- いろいろな植物にふれられる。
- 草・木・花・野菜など季節や、生きるための食べ物、育てる命といただく命を自然に学べる環境がよい。清掃も行き届いている。
- 野菜栽培も季節感があり良いと思います。

### ★安全管理

- 狭く感じる所がある。
- 危険な箇所がいくつかあった。
- 子どもたちが思い切り体を動かして遊べる環境と、その中でけがを配慮してくださり、安全面に考慮されているところがよくわかる。
- 危ないと思われる場所がなかった。
- 安全対策もされており、十分に自由に遊べていた。
- 危なくないようにマット等が敷いてあって安心した。
- 外で安全に遊べる。
- 整理整頓が、子どもたちがしやすいようにしている。けがをしないよう保護されている。

### ★遊具・素材・材料等

- 子どもが自ら砂を掘ったり、水を流したり、思ったことが自由にできていてすばらしい。
- 文具など、子どもが取りやすい位置にわかりやすくされている。
- 自分たちが工作するのに十分すぎるほどの材料や道具がそろっているのがとても良い。

- 体のバランスを使って遊ぶものがなかなか家庭ではさせてあげられないと思っていたので、幼稚園でたくさん経験させてもらえるのがありがたいです。
- 遊びたい道具が遊びたい場所にそろっている。
- ブロックや遊具等、興味がわきそうな道具があり、積極的に遊べる環境が整っている。
- 何かひらめいて「作りたい!」「やりたい!」と思うことをすぐできていた。

### ★空間・動線・場の構成

- 身近に自然があり、ふれる機会が多い。
- 整理整頓が成されているため、子どもの遊びへのアクションがスムーズで、遊んだ後の片付けも自分でやり遂げられていた。
- 屋内でも屋外でも、やりたい遊びに応じた環境が整っていると感じた。すべて準備した遊具ではなく、組み合わせたり形を少し変えて遊べる点が特にすばらしいと思った。
- やりたいと思ったらすぐ近くにいろいろなものが用意されていて、安全面もきちんと配慮されていると思う。
- 動きに妨げのないような配置かつ子どもがすぐ手にとりやすい位置に遊び道具が置かれている。
- 一輪車練習用のポールにもクッションが備えてあり、ぶつかっても大丈夫なようになっていた。ターザンロープも調度よい高さに備えられていた。大型積み木も登ってもよい高さに積み上げられていた。
- いたる所に子どもたちが興味をかきたてられるような遊びがあって、どこにもぎやかだった。
- 子どもの作品の展示も工夫されているので見入りました。(●名前が版画に入っていないのが残念でした。)
- 狭く感じる所もありますが、色々な工夫で楽しめる要素がたくさんあるように思いました。

### その他について自由記述の概要

- 家とは違う園での様子がよく見られてよかった。
- 毎日楽しく通園しています。子どもにとって最高の環境で日々学ばせていただき感謝しかない。
- エコアクションでは、環境に関して子どもたちに実にわかりやすく、飽きさせずお話しいただき、子どもたちが考える場を作ってください、ありがとうございました。
- 楽しい毎日をいつもありがとうございます。来期もよろしく願います。
- 一人一人がやりたいことを見つけて楽しめていると感じた。遊びの中からのいろんな反応や体験、人とのかかわりを自然と学べているなど実感した。
- 一人ひとりの個性を大事にしているのがよく伝わってきます。
- いつも本当に子どもたちの保育ありがとうございます。子どもも保護者も感謝しております。
- 普段なかなか見ることができない保育を見せていただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願います。
- とても楽しそうに、一人ではなくみんなで活動している姿が楽しそうでした。
- 子どもが生き活きと、やりたい事を取り組んでいて楽しさが伝わってくる。
- 幼稚園の保育室でも、ゴミの分別を行っているのは驚きました。家でも子どもにゴミの分別をしてもらおうと思いました。
- 家で子どもがいつも話している通り、楽しい感じが伝わった。
- 日頃から子どもが「幼稚園に行きたい!」という理由がわかりました。子どものしたい活

動を全面的にサポートしてくださる先生に感謝申し上げます。

- このすばらしい環境で毎日を過ごせる子どもたちはとても幸せだと思う。
- いつもの生活の様子が見え安心しました。仲間とともにいきいきと楽しそうな姿が見えました。先生との信頼関係もできてきて、見守ってくださる姿に安心感があるように思いました。一緒にしたゲーム、楽しかったです。
- 先生方が子どもたちと一緒に遊んでおられる姿にすごいと思うのと同時に、自分の事も考えるきっかけとなりました。
- 環境の話を、子どもたちにもわかりやすく説明し、子どももよく話を聞いていて驚きました。ゴミ捨て等、興味をもっともらいたいです。
- 子どもが楽しそうに遊んでいる様子が見れて良かった。子どもが誰もいない教室の電気を消していたので感心した。

別添資料	1-①	平成30年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料	1-③	生活プラン
別添資料	5-②	教育関係者によるアンケート集計結果

## 観点1-2 幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムの実施と改善に関する取り組み状況

本学の推進する幼小中一貫型教育プランの一つである、「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」のもと、積極的な幼小の合同保育／授業の展開と改善がなされている。

### 【観点に係る状況】

#### 1. 幼小連携の科学的思考力涵養プログラム

##### (1) 教育目標

－「育てたい力」－

- ①「わくわく ときどき」感動する心を育てる。
- ②人間の本来的な知的喜びを、身体感覚を通して呼び覚ます。
- ③知恵のある生活（くらし）を受け継ぐ者として育てる。
  - ・地域（日本）の衣食住のさまざまな共有体験を豊かにする。
  - ・自然と一体化して生きていく生活を豊かにする。
  - ・生活の中のさまざまな問題を解決していく中で科学的思考力を身につけていく。
- ④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。

##### (2) プログラムの内容・方法

幼児期は事象に対する直感的感性的把握と試行錯誤の時代で、感性を構成する要素である、気づく・感じる・考える・かかわる・行動するが順に意識化され、次第に高次化され、発展していく特性をもつ。事象に対する感受性（気づく、感じる）や思考性（思う、考える、創造する）が活動性（かかわる、行動する）と関係しながら循環的に働き、かつ、その相互作用によってそれぞれの働きがより活発になっていく。幼小連携の科学的思考力涵養プログラムでは、以下の ABCD のカテゴリーの活動を誘発

し、幼児との相互作用の中でより豊かな学びを生み出していく環境、つまり、遊誘財を活用し保育展開をすることが有効である。

	<p><b>A. 発見と問題解決</b></p> <p><b>①好奇心・試行錯誤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○美しいものや不思議なもの、未知のものなどに驚嘆したり、関心をもってかかわったりしようとする。</li> <li>○多様なものにかかわって、周囲の子どもたちや大人にたずねたり、自分で調べたり試したりしながら、試行錯誤する過程を楽しみ、そのものの特性に気付いたりする。</li> <li>○発見した喜びを味わったり、人に伝えたりして、意欲的に表現しようとする。</li> <li>○「なぜ、どうして」などと想像したり、自分のイメージで新しいものをつくり出そうとしたりする。</li> </ul> <p><b>②論理的に理由付けされた行動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。(帽子・手袋・上着・雨傘など)</li> <li>○使った遊具や用具を片付けるとき、正しい場所に置く。</li> <li>○遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。</li> <li>○最初と最後の様子や過去と現在の状態から、つながりや因果関係を考えたり予測したりする。</li> <li>○自然に触れる中で、ものの仕組みや法則に気付く。</li> </ul>
	<p><b>B. 言葉への関心</b></p> <p><b>①話すこと・聞くこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人の話や絵本・図鑑、テレビや新聞などの情報から、自分の周りの出来事に関心をもつ。</li> <li>○うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き、「なるほど」と納得したりする。</li> <li>○主述をはっきりさせて自分の意見を言う。</li> <li>○出来事やものの特徴を、かかわっているものやことと結びつけながら、自分の言葉で説明する。</li> <li>○比喻や例を用いて話したり説明したりする。</li> <li>○しりとり遊びやなぞなぞ遊び、カルタ遊びを楽しむ。</li> <li>○好きな絵本がいくつかあり、その内容について意欲的に話そうとする。</li> <li>○絵本を読んだ後やその日のミーティングなど、話し合いに参加する。</li> <li>○トラブルが発生したとき、その理由を言葉で説明しようとする。</li> </ul> <p><b>②書くこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。</li> <li>○自分の名前が分かり、平仮名で書ける。</li> <li>○書きたいと思い、文字や表示(ロゴ)などを見ながらまねて書く。</li> <li>○友達と一緒に、絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。(手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど)</li> </ul>
	<p><b>C. 数量と図形(平面・立体・空間)</b></p> <p><b>①数理的な見方や考え方や表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○対象を比べる <ul style="list-style-type: none"> <li>・並べたり、重ねたり、入れ替えたりして、長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら、ものの数(数量)を見つけ出す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>長いー短い(長さ) / 大きいー小さい(体積) / 多いー少ない(容積) / 重いー軽い(重さ) / 強いー弱い(強さ) / 早いー遅い(時間) / 速いー遅い(速さ) / 冷たいー熱い(温度)など</li> </ul> </li> <li>・ものの形(図・形・空間)の違っている所(共通・相違点)に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>長いー短い(長さ) / 高いー低い(高さ) / 深いー浅い(深さ) / 広いー狭い(面積) / 丸いー角い(角度)など</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○まとまりのある3つの群について、多少の区別をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(<math>A &gt; C &gt; B</math>) / (<math>A = B = C</math>)</li> </ul> </li> <li>○毎日の欠席調べやけが調べで、誰も該当する人がいないときに0人だという表現や、お皿のクッキーを食べてしまったときに、全部無くなった(0個)と言うような表現を用いる。(0の概念形成)</li> <li>○人・個・本・枚など数詞を遣って話す。</li> <li>○～と比べて、～の方が、一番～など、関係を比較して表現する言葉を遣う。</li> <li>○今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。</li> </ul> <p><b>②数えること・まとまりで把握すること(分離量や連続量)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。</li> </ul>

- (例；30人くらいの人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど)
- 求めに応じて、「○○を○個」、「○○を○個」、「○○を○個」など、種類や数の違うものをとる。
  - 前から○人目、右から○番目、下から○段目など順序や位置関係が分かる。
  - 学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。(カレーライスやクッキーなど)
  - お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につぎ分けようとする。
  - ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。

### ③図形（平面・立体・空間）

- 体（目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など）やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。
- 興味をもったいろいろなものを模写しようとする。(例：動植物や図や国旗や絵本など)
- 異なった形を区別して使用したり片付けたりする。(例；木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごとと道具など分類して片付けたり使用するなど)
- 上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。
- 形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを完成させることを喜ぶ。(ジグソーパズルや自作の遊具など)
- 折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。
- 真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。
- 上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。
- 積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。

### ④パターンと組み合わせ

- ものの形（大きさ・長さ）や色の形状や特徴に応じて並べる。
- パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。(例：トランプやサイコロの目)
- 並んだ絵の繰り返しに気付き、次にくるものを予測して楽しむ。
- カレンダーに関心を持ち、生活の中で意識したり使ったりする。
- 日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。
- いくつかの特徴で事物を分けたり仲間（集合）作りをしたりする。
- 自分自身でパターンをつくって楽しむ。(例 ビーズや木の実のアクセサリー・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で)
- 拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。

## D 協同的感性

### ①協同的な言葉や表現

- 友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。
- 役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。
- 友達と活動の目的や目標などについて話し合う。
- 相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き、話し合う。

### ②人間を理解し関係を調整する力(21項目)

- 異質なものととの出会い
  - ①自分の思うようにならないことを体験する。
  - ②必要なときに、人に助けを求める。
  - ③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもつ。
  - ④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。
  - ⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。
  - ⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。
- 異質なものへの興味や関心
  - ⑦他者の行為や言葉に関心をもつ。
  - ⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。
  - ⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聴く。
  - ⑩感情を込めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。
  - ⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。
- 他者との交流
  - ⑫友達の遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。
  - ⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。
  - ⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。
  - ⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもったりする。

- ⑩自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。
- ⑪自分と違うところをもつ人に憧れる。
- 関係性をつくる
- ⑫友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。
- ⑬仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。
- ⑭緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。
- ⑮問題に対して創造的に解決しようとする。

### 【分析結果と根拠理由】

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」の項目を設けた。このことによって具体的な幼児の姿として可視化できるようになった。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

幼児期から児童期に向けての科学的思考力涵養をはかるという観点から発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、評価要素のカテゴリー設定に現れている。「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」。

### 【改善を要する点】

今後、数年間をかけて、幼児・児童の学びや育ちの現状に照らし合わせながら、評価項目や内容について妥当性を検証するなどさらなる改善が必要である。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

### 自己評価の基準

- A 十分達成されている
  - B 達成されている
  - C 取り組まれているが、成果が十分でない
  - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

## 評価項目2 保健安全管理

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

##### 【観点到に係る状況】

月別の指導計画の見直しの実施については、今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、時期に合わせた疾病の予防・自分たちの体のことなどについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。また、食育についても今年度見直し、より無添加で自然の味が五感を通して楽しめるようなものをおやつ時間に提供するように努めた。近年増加している食物アレルギーの対応が必要な幼児に向けては、基本的に園児全員の体にも良く、対応の必要な幼児もできるだけ同じものをみんなで美味しく食べられるように工夫した。アレルギー対応については、4月に職員に向けた園内研修を実施し、知識・技術の向上に努めた。

保護者への保健指導に関する協力については、各組ごとに講話をし、むし歯予防に対する知識を高めた他、長期休業日前には基本的な生活習慣についての講話もした。毎月「ほけんだより」を配付して、季節に応じた疾病の予防法や現在流行している感染症についてなどの情報を提供したり、春には健康診断の意義、秋には食についてのお知らせも配布し、家庭での指導に役立てるよう協力を求めてきた。

園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接触れるものについては、消毒をするなどの配慮をしている。インフルエンザ等の感染症の流行時期の前に、各部屋に塩素系の除菌剤を置くなどして予防に努めた。

##### 【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。また、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考えている。

#### 資料2-① 保健室2月の指導計画

##### 【幼児の姿】

- ・寒さが依然厳しく、インフルエンザの流行がみられる。かぜをひいたり、熱を出したりせきをしている幼児も多くみられる。
- ・手袋やマフラー、コートなどを身につけて、暖かくしている。
- ・水たまりに張った氷を見つけ、取ってきてみんなで観察をしている。
- ・うがいや手洗いなどに関心を持ち始めている。

##### 【ねらい】

- ・かぜやインフルエンザの予防をしようとする。
- ・寒さに負けず戸外でしっかり運動をしようとする。
- ・規則正しい生活をしようとする。

指導内容	指導の要点と環境構成の留意点
○かぜやインフルエンザの予防をする。 ・手洗い・うがいの	○かぜやインフルエンザ、その他の感染症の予防には、うがい・手洗いが大切であることを知らせ、進んで実行できるようにさせる。 ・おやつの前、外から帰った後は、必ずうがい・手洗いをするよう声

<p>大切さを知り実行できるようにする。 ・規則正しい生活をする。</p>	<p>をかける。 ・早寝・早起きや、バランスの良い食事などが実行できるよう保護者にも伝える。 ・行事にあわせて病気の予防を呼びかけ、たとえば豆まきでは「かぜもそと」と、かぜに負けない気持ちを育てる。 ・インフルエンザにかかった場合は、出席停止の措置をとるようにする。</p>
<p>○寒さに負けず、戸外で元気に遊ぶ。</p>	<p>○一輪車やサッカー・ドッジボール・竹馬・縄跳び・スケーター ・忍者ごっこなどで身体を思い切り動かし、戸外で元気に遊ぶように促す。 ・寒くなると身体がかたくなり、けがをしやすいため、十分に準備運動をするなどし、けがの予防をする。</p>
<p>○体調や温度・気候に合わせて、衣服の着脱ができたり防寒着の調整ができたりする。</p>	<p>○衣服の着脱や防寒着による調節の大切さを伝える。 ・遊んだ後で汗をかいた衣服の着替えができるように促す。 ・天候や気候に合わせて、手袋や防寒着の着脱ができるように促す。</p>
<p>○心の問題や悩みを上手に解決しようとする。</p>	<p>○友達とけんかしたり、遊びがうまくいかなかったりして来室した幼児に対して、幼児の話をよく聞き、その子の思いをしっかり受け止めながら、自分のやりたいことに向かっていけるように援助する。なんとなく来室した幼児に対しては、無理にその原因を追及しようとせず、居心地の良い場所となるように、温かく見守り、幼児の状態を見ながら対応し、気分を立て直して遊びに戻っていけるように支援をする。</p>
<p>(保護者への対応) *保護者との健康相談の場を設ける。</p>	<p>*子どもたちの身体や心の健康について、また、子育て全般について、健康相談の場を設けるとともに、必要に応じて専門機関への連絡を取るなど、保護者のニーズにあった支援ができるようにする。</p>

別添資料 1-② 平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書  
別添資料 2-① ほけんだより 2月号

## 観点2-2 危機管理対策の見直しと強化

### 【観点に係る状況】

「平成30年度安全管理計画－危機管理マニュアル」(別添資料2-②)を昨年度の反省にたち見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。

また、毎月20日の学校安全の日には、教職員が2人組で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなどの対応をしている。特に今年度は、安全点検表を見直し、項目の細分化や重点項目を意識した点検にするなど、より点検を明確かつ効率的にできるように努めた。また、5月には教職員が附属小学校の教職員とともに救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得て実技講習を行っている。

### 資料2-② 防災・避難訓練の実施

- ① 防災訓練(地震)計画
- ・ねらい ・実際に地震が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。

- ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成30年5月7日（月） 9：45～9：55

②避難訓練（不審者対応）計画

- ・ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・期 日 平成30年6月1日（金） 10：50～11：05
- ・状況設定 幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定  
不審者が城山側県道から侵入。幼小連携畑から幼稚園敷地内に入ってきたと想定。

③防災訓練（地震・火災）計画

- ・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成30年9月3日（月） 9：40～9：50

④幼小合同避難訓練（地震・津波）計画

- ・ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成30年10月2日（火） 10：30～11：00

⑤避難訓練（地震・津波）計画

- ・ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成31年1月21日（月） 11：10～11：20

**【分析結果と根拠理由】**

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知して、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めている。

別添資料 2-② 平成30年度安全管理計画－危機管理マニュアルー

**(2) 優れた点及び改善を要する点**

**【優れた点】**

指導計画に基づいて保健指導を実施し、職員会において毎月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、幼児や園の実態に応じてよりよく改定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も親しみやすいカットを入れたり、構成を考えるなどして読みやすさを工夫した。特に、流行性の疾病については、その予防や対処方法などを丁寧に紹介した。幼稚園評価アンケートにおいても「園が保護者に出す通知やほけんだよりなどはわかりやすかったですか」に92%が「そう思う」

8%が「だいたいそう思う」と回答している。

危機管理対策の見直しと強化については、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようにしている。避難方法が一目でわかる一枚もののマニュアルを作成し教職員・保護者への周知に努めた。避難訓練時には、当日園内で活動している保護者ボランティアも訓練に参加するなど、保護者の意識も高めるようにしている。毎年、教職員が救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施することで、安全対応の能力の向上に役立てている。防災用備蓄品（飲料・食料・衛生用品等）の購入と入れ替えを行い、ゆとりある消費期限のものを備蓄している。7月11日に備蓄水、20日に非常食を交換済み。期限は2022年3月以降。

平成31年1月10日に日本赤十字社の青少年赤十字に加盟した。幼稚園の加盟は本県初めてである。

#### 【改善を要する点】

管理職や養護教諭が不在時の対応や、地震・津波・火災など様々な場面を想定した避難の仕方など、訓練が形骸化しないよう、訓練の度に危機感をもって実施に臨む必要があると思われる。幼稚園の避難場所は小学校に想定されているので、さまざまな非常用の備品や備蓄品などの保管場所の検討が必要である。また、次年度に向けて新しい非常食の購入の必要もある。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## 評価項目3 組織運営

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点3 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

##### 【観点到る状況】

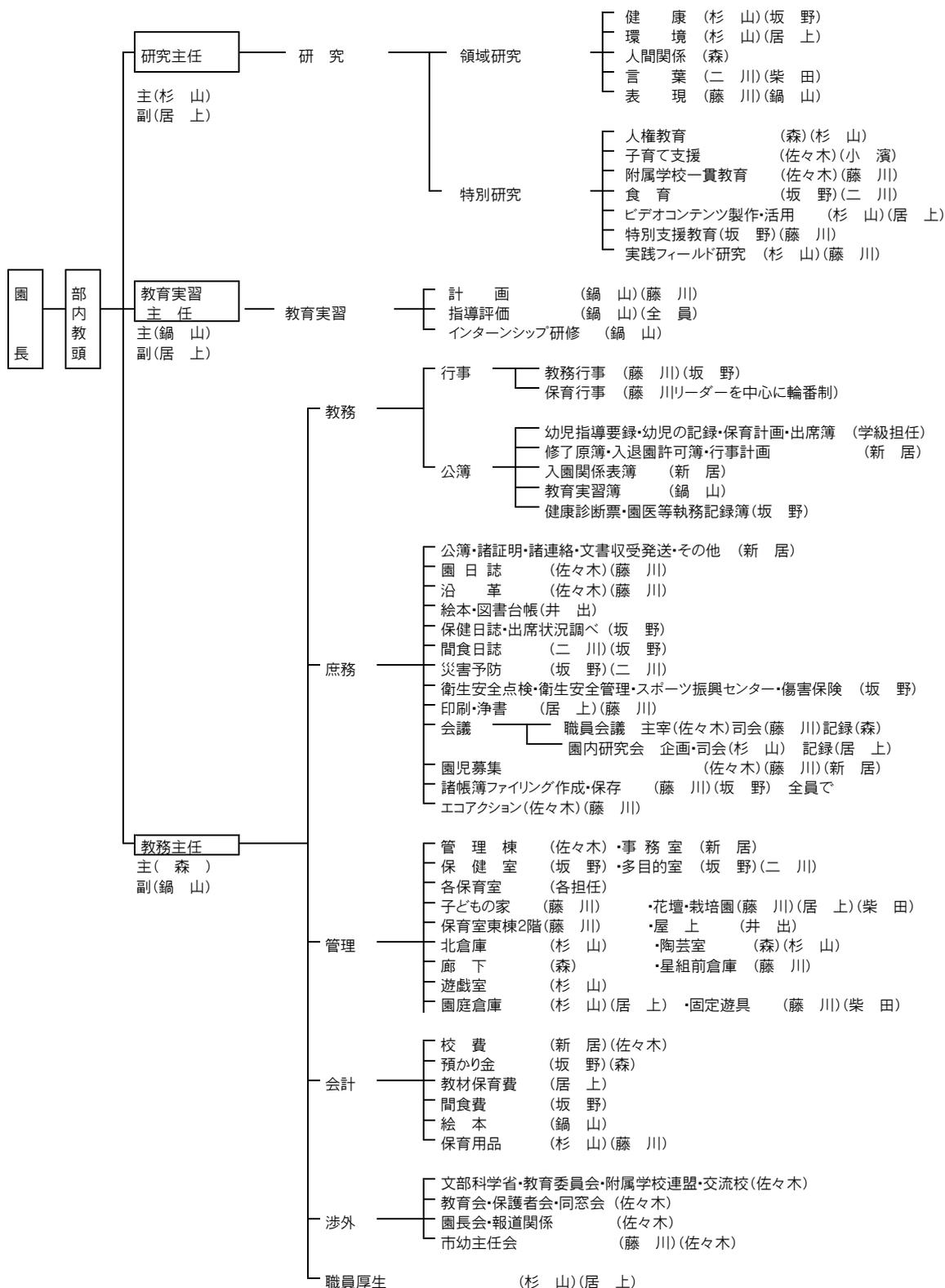
本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。平成26年度より専任教頭が廃止されたので、学級担任もする部内教頭の負担を減らし、各主任のリーダーシップが発揮されやすいよう改善を行った。

少数精鋭主義に徹して、職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮するとともに、各種行事における責任者を分担制（主任・副主任）にし、主体的に園経営に参加できるように努めた。園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告にあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしている。その他においても必要に応じ、協議する機会をとっている。

資料3-① 平成30年度第1回職員会議題

平成30年度 第1回 職員 会議		鳴門教育大学附属幼稚園
と き	平成30年4月1日(金)	10:00～
と ころ	附属幼稚園多目的室	
議 事	園 長あいさつ 転入者あいさつ	
1 協議事項		(担当者)
(1) 平成30年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2) 平成30年度 部内教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3) 鳴門教育大学附属幼稚園園則・同大学中期計画・就業規則等について	資料2	(園 長)
(4) 平成30年度 園経営方針について	資料3	(園 長)
(5) 平成30年度 職員の勤務について	資料4	(園 長)
(6) 平成30年度 園務分掌について	資料5	(園 長)
(7) 平成30年度 年間行事計画について	資料6	(部内教頭)
(8) 平成30年度 学年始休業中の計画表	資料7	(部内教頭)
(9) 4月の行事予定について	資料8	(部内教頭)
(10) 新学期諸準備について	資料9	(部内教頭)
(11) 始業式について	資料10	(部内教頭)
(12) 新入園児用品渡しについて	資料11	(部内教頭)
(13) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料12	(部内教頭)
(14) 入園式について	資料13	(部内教頭)
(15) 芙蓉会規程について	資料14	(事務主任)
(16) みどり会事業計画・奨学寄付金等について	資料15	(部内教頭)
(17) 園児緊急連絡網等について		(部内教頭)
(18) 変形時間労働制年間カレンダーについて	資料16	(事務主任)
(19) 平成30年度 幼稚園要覧について	資料17	(園 長)
2 連絡事項		
(1) 文書整理・情報管理等について		(園 長)
(2) 経費節減について		(園 長)
3 その他		
(1) 労働環境協議会役員改選について		(園 長)
(2) ハラスメント相談委員改選について		(園 長)

資料3-② 平成30年度園務分掌一覧表



【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営を行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担は大きいですが、各々が責任をもって園運営にあたっている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

園務分掌を詳細に示し、責任の所在や業務内容を明確にし少ない職員数で運営できるように工夫している。責任担当者を複数体制で組織し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。

年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定をする。また、実施に当たっては全員で再確認のための打ち合わせを行い、確実に実施できるように努めている。実施後は全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしている。また、教職員が少人数であるため、全員で取りかかるべき場合と、そうではない場合を明確にし、運営の効率化を図っている。

### 【改善を要する点】

「働き方改革」の実践のためにこれまでは職員が行っていた施設や遊具の塗装などは外注したり、仕事の共同作業化と処理ソフトの購入等の改善を随時行い、職員の負担軽減のための方略を工夫しているが、業務や組織構成の見直しを行う必要はまだある。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

## 評価項目4 研究と研修

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況

##### 【観点到る状況】

##### ①園内研究会・合同研究会

我が国の幼児教育が直面する課題を次のように捉え、幼児教育における先導的役割を果たそうと考えた。第一に、平成27年4月から施行された子ども・子育て支援法等の実施に伴い、教育・保育サービスの量的拡充が図られる一方で、保育の質についての議論も盛んになりつつある。これまで、本園においてもこの質の問題について「遊誘財」の視点から取り組み、さまざまな提案を重ねてきた。

第二に、保育者間の実践知伝承の問題である。幼稚園教諭・保育士の平均勤務年数は7年（小学校教諭は22年）ときわめて短い。従って、人間関係をはじめとする職場環境の改善と保育の質を担保する実践知の継承は保育者間の協働性を活発化させるなどの方略をもって伝承・創造していくことが必要である。しかしながら、このことに関する実践研究は少ない。

そこで、「遊誘財から豊かな遊びを創り出すために」の研究主題のもと、これらの課題解決のために5年計画で研究に取り組んでいる。

4年目となる今年度は、現代の幼児教育に対する実践的アプローチと本園の働き方改革の方略を発信するため、幼児教育研究会会場を夏期休業中の高島キャンパスに移しての初めての試みを行った。（今後は附属幼稚園と鳴門教育大学との隔年の開催を計画している。）平成

30年度幼児教育研究会要項を刊行し、幼児教育研究会において成果を発表した。

また、合同研究会のうち、年間5回の公開保育・研究会には県内・県外（伊丹市、姫路市、赤穂市、津山市、総社市他）からの参加者も52名あった。

## ②研究会発表会

質の高い保育の実践のため、園内研究会並びに合同研究会を進めてきた本園ならびに鳴門教育大学の研究者チームは、これまで遊誘財からいかに豊かな遊びを創出するかをテーマに研究発表と保育公開をおこなってきた。

今年10月より実施される幼児教育の無償化に臨んで、保育の「質」が問われるようになることは必然であるが、毎年、人材不足や業務の煩雑化など多忙化の一途をたどる保育の現場においては過酷な課題である。

私たち国立大学附属幼稚園は、このような課題解決に向けた汎用性の高い研究成果の発信をする必要がある。例えば、人材育成の方略や、短時間でも効果的な研修や研究方法についての提案である。今年度は、あえて恒例の保育公開をせず、夏期休業中の日曜日の午後に大学キャンパスにて、「大人だけの研究会」を試行した。幼年発達支援コースの田村先生、湯地先生、木村先生、塩路先生、教員養成特別コースの木下先生、徳島県教育委員会の勝浦指導主事の専門的知見で保育の裏側、タネと仕掛けを明らかにして、質向上の具体的な取り組みを公表した。また、目の前に子どもたちの存在がなくても可能な研究やリアルタイムで保育の現場に立たなくても共有できる保育の核心に触れることのできる研修の方法を探究する挑戦を行い、メディア機器をはじめとした様々な物的資源や本会に参集してくれる人的資源を活用して、研究主題に協同的にアプローチした。

307名が参加し、山下一夫学長の挨拶、佐々木園長の研究発表、幼年発達支援コースの田村隆宏教授による講演「同僚性を促す園内研修の在り方」の後に行った分科会は次の通りである。

### 分科会①「保育の意図を語り合う」

司会・コーディネーター 幼年発達支援コース准教授 塩路晶子 提案 杉山健人

### 分科会②「豊かな保育実践のための同僚性」

司会・コーディネーター 幼年発達支援コース准教授 木村直子 提案 鍋山由美

### 分科会③「カリキュラム・マネジメントを進めるために ～それぞれのキャリアのよさや違いを生かしながら進めるカリキュラム・マネジメントとは～」

司会・コーディネーター 幼年発達支援コース教授 湯地宏樹

提案 藤川 佳余子 居上真梨子

コメンテーター 徳島県教育委員会 指導主事 勝浦千晶

### 分科会④「子どものための幼小接続」

司会・コーディネーター 教員養成特別コース教授 木下光二 提案 森友子

以上の通り、幼児教育関係者への研修支援ができています。

## ③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修 幼稚園担当指導主事・担当者会議 1名
- ・全附連幼稚園部会への参加等 2名
- ・日本保育学会第71回大会（於 宮城学院女子大学）においてポスター発表にて遊誘財研究を生かした保育者養成について成果を発表（幼年発達支援コースと共同）
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会、国・県幼稚園教育課程研究協議会、養護教諭研修会、学校保健安全研究協議会、幼稚園等新規採用教諭研修 等
- ・全国及び県・市幼稚園教育研究協議会、全幼研、教育会主催の研究会 等

- ・その他セミナー・学会・研究会 等

以上の通り、数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し、そこで研究発表や話題提供なども行っている。

#### 観点4-2 幼児教育関係者への研修支援等の状況

##### 【観点に係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。

今年度から正式に徳島県教育委員会の主催する法定研修要項（幼稚園等新規採用教員研修から幼稚園長等運営管理協議会に至るキャリアステージ別研修）には、「協力 鳴門教育大学附属幼稚園」が明記されるようにした。本園の協力・貢献をよりわかりやすく発信できるようになった。

今年度の具体的な研修支援、教員派遣、公開保育の提供としては、次のとおりである。

- ・園長が平成30年度「徳島県幼児教育アクションプランⅡ推進連絡協議会」委員，平成30年度徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー，平成30年度徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員，公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部の支部長を務めた。
- ・合同研究会の開催
- ・徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣
- ・県幼稚園等新規採用教員研修・幼稚園長等運営管理協議会，徳島県小教研生活課部会における指導
- ・平成30年度幼稚園新規採用教諭研修，保育技術協議会，教育課程研究協議会等の県教育委員会主催の研修会への講師派遣
- ・教員の県内外研修会への講演講師の派遣（徳島県教育委員会・保育事業団，徳島市教育委員会，徳島県幼稚園・こども園教育研究協議会板野郡大会・三好郡市大会・阿波市大会，阿南市教育委員会，北島町教育委員会，八尾市教育委員会，兵庫県教育委員会，兵庫県神戸市・姫路市・明石市・伊丹市・相生市・たつの市・赤穂市・尼崎市教育委員会，香川県丸亀市・木田郡教育委員会，大阪府幼稚園長会，岡山県幼稚園長会，岡山県津山市・瀬戸市・笠岡市）
- ・文部科学省「幼児教育の質向上に関する検討委員会」・「幼児教育の推進体制構築事業」，国立教育研究所プロジェクト研究「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する調査研究」協力
- ・他県からの研修受け入れ並びに実地指導  
公立幼稚園・小学校・保育所（丸亀市・赤穂市・津山市・姫路市研修他）  
国立大学附属幼稚園（京都教育大学・全附連副園長会徳島大会における公開保育）

#### 観点4-3 地域住民への貢献

##### 【観点に係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち、専門性を発揮し、次のような地域貢献を果たしている。

- ・ オープンスクールの実施。参加者約172人（11月11日）  
エコアクション21講演会「地球を救うのは君たちだ」講師 佐々木園長
- ・ 教育講演会の開催。今年度は、本学 山下一夫学長を講師に「子どもの心と大人の知恵—あせらず ぼちぼちと—」と題した講演会を開催し、約170名の参加者を得た。（9月10日）
- ・ 徳島市立助任幼稚園（1月16日）や板野郡公立幼稚園・こども園（5月29日）学校法人わかさ幼稚園（6月17日）のPTA研修会において、子育てに関する講演会を実施。

### 【分析結果と根拠理由】

毎週定例の園内研究会や合同研究会で、豊かな遊誘財を創出するための資質についてカンファレンスを実施し協議を重ねた。また、昨年度から研究保育を公開にして実施したことは、教員の指導力向上に直結し、保育の質の向上に寄与したと思われる。

また、園外での研究会・研修会の参加も多岐にわたり、参加職員による報告会をもつなどして職員全体で現在の幼児教育に関する最新の情報を共有している。このことから、教員の資質向上のための園内外での研修は充実していると言える。

地域住民の子育て支援についてもオープンスクールや様々な講演会を実施して、積極的に進めている。

別添資料1－③ 生活プラン（2014.8.1発行）  
別添資料4－① 平成30年度幼児教育研究会要項

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

研修会要項に本園の協力・貢献が記されることによって、より徳島県教育委員会との連携強化が発信できるようになった。また、県内外より研究や実践指導の依頼が多くあり、幼稚園教育や教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。

幼児教育研究会を夏期休業中の鳴門教育大学キャンパス内で実施することで、大学との連携を強力に発信することができた。さらに、職員の負担軽減にもつながった。

合同研究会では、幼年発達支援コースはじめ教員養成特別コースなど、本学教員や附属小学校教員などの人的資源を得て、多面的な視点からの保育カンファレンスで協議が深められた。これまで構築してきた実践資料を整理し、実際に保育を行った保育者らによる保育記録の分析がすすめられた。

また、大学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上に確実につながっている。また、幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育の質を考えることができた。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究へ向かう意欲が高まっている。また、研修会参加者は研修報告を行うことで研修成果を全職員に伝達している。担任外教員（非常勤講師）が配置されているため、数多くの研修会への派遣が可能となっている。

地域住民に対しては、幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を果たしている。

### 【改善を要する点】

平成27年度からの子ども・子育て支援法のもと、公・私立幼稚園や保育所の認定子ども園化が加速することが想定される。子ども・子育て支援法の対象となっていない国立大学附属幼稚園としての危機感を職員全員で共有し、なお一層の教育研究の成果アピールをする必要がある。さらに、大学附属の利点を生かし他大学教員や附属学校教員など、豊かで質の高い大学の人的・文化的環境を資質向上を図る研修に活用できるよう、多面的な連携研究を積極的に働きかけたい。

入園選考を実施していることもあり、地域の多くの方を対象に園を開放することについては、一定の条件を設けざるを得ないという課題も残る。

### (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

## 評価項目5 教育環境整備

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点5 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

#### 【観点到係る状況】

施設・設備の充実整備の状況

家禽舎並びに門扉を塗装した。2月下旬から園庭南側のブロック塀の改修工事を行うなど、施設・設備の充実が行われた。

#### 【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに徹している。また、点検のシステムを確立させることで、職員の安全に対する意識を高め、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し、附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされた。

本園の環境整備についてのアンケート集計結果は、オープンスクール参加者では94.4%がよく整っていると認めている。

教育委員会や幼稚園、保育所、認定こども園、小教研生活科部会や園外研修における来園者のアンケートも実施した。教育関係者によるアンケート集計結果(資料5-②)では、「幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導について」は、100%からよいとの評価を得た。また、「3. 園の環境衛生や危機管理体制について」では、91.4%からよいとの評価を得ている。「6. 安全・維持管理のため環境整備について」は、95.4%からよいとの評価を得ている。

資料5-② 平成30年度 教育関係者によるアンケート集計結果

\*実施日：研究保育（5/17・2名）（6/7・11名）園長等研修（6/12・35名）小教研生活科部会（8/6・28名）倉敷市参観（8/6・17名）新採研（8/6・46名）研究保育（11/13・13名）嵯峨幼稚園参観（11/22・22名） 計174名

\*職種：園長54名（31%）副園長8名（4.6%）教頭2名（1.1%）教諭94名（54%）教育委員会1名（0.6%）その他15名（8.7%） 計174名

アンケート項目	5	4	3	2	1	無回答	計
1. 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導について。	130	44	0	0	0	0	174
	74.7%	25.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
2. 科学的思考を促す指導計画の実践について。	124	44	6	0	0	0	174
	71.3%	25.3%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
3. 園の環境衛生や危機管理体制について。	94	65	15	0	0	0	174
	54.0%	37.4%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
4. 職員の保育に向かう姿勢や参観者への対応に	150	22	2	0	0	0	174
	86.2%	12.6%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
5. 幼児の興味や関心を促す保育環境について。	152	21	1	0	0	0	174
	87.4%	12.1%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
6. 安全・維持管理のため環境整備について。	90	76	8	0	0	0	174
	51.7%	43.7%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
7. 本日の研修や参観の内容について。	154	17	3	0	0	0	174
	88.5%	9.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
8. その他（感想）	<p>子どもたち一人一人が遊びに熱中、夢中になっている姿を見て大変驚いた。子どもたちの発達、育ててほしい姿に即したねらいをもって取り組む保育を見せていただいた。丁寧に一人一人を見取り、次の手立てを考えていること、これまでの過程とこれからの見通しをもって今日があることが分かった。園全体で一人ひとりの子どもを大切にカンファレンスを持ちながら保育をしていることが伝わってきた。各年齢ごとのねらいが保育室を見てすぐに分かるような環境にしてあり、子どもたちが自ら選んで遊び込める設定がされていた。子どもが自由に選んで自由に遊ぶ中で、知的な学びの要素も含んであった。教師の関わり方やその意図を保護者に説明することが問われる難しさも感じた。</p>						

別添資料 1-① 平成30年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果  
別添資料 5-② 参観者によるアンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検は複数体制をとるなどして、よく機能している。施設・設備の不備についてはすぐに設置者との連携をとるようにし、教育環境が常に美しく整備されている。

【改善を要する点】

ブロック塀の改修工事は行われたが、現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つ。園舎全面改修を切望しているが、現在混然としている幼児教育行政の動向を見定めた幼児教育施設の建設のため、しばらくは部分補修でしのいでいく必要がある。

本学施設課の迅速な対応と教職員による環境整備が不可欠である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

## 評価項目6 教育実習

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

##### 【観点に係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

①ふれあい実習 9月10日

学部1年生6名

大学院生2名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもへの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 6月12日、13日

学部3年生5名、大学院生1名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。

③附属校園実習・教員インターンシップ オリエンテーション 7月11日

学部3年生5名、大学院生2名

④附属学校園実習 9月3日～9月28日

学部3年生5名、大学院生1名、青山学院大学4年生1名、大谷大学4年生1名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。

計画表は<資料6-①>

⑤大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻教員養成コース（教職大学院）「基礎インターンシップ」 10月22日～11月16日。教員養成特別コース1年生1名。

##### カリキュラム・マネジメント力を促す実習の工夫について

毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週明けに一度、先週一週間の観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また評価については、週ごとに<資料6-②>の自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

資料6-① 附属学校園実習 実地教育計画表

週	月/日	曜	行 事	実習内容	指 導 要 項	時 間	備 考	
1	9月3日	月	午後保育日 教育実習開始 対面式 避難訓練 (防災の日)	観察参加	○本園の教育について(佐々木園長) ○教育実習の意義(鍋山) ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について	14:30~15:00 15:00~15:30 15:30~	・諸書類提出 ・保育終了後に 記念写真撮影 (実習生・職員) ※ 正装	
	9月4日	火	入園希望者参 観① 身体測定(4 歳) 9月指導計画 打ち合わせ14 :30~16:30	保育(一 部) 保育参加	○本園の教育課程・指導計画・日 案、幼児理解と幼児指導について(藤 川) ○学級経営・学級事務(鍋山) ●領域研究・環境	13:30~14:00 14:00~14:30 16:30~		
	9月5日	水	午後保育日 身体測定(3 歳児)	保育(一 部) 保育参加	○本園の人権教育について(森) ●領域研究・言葉	14:30~15:00 15:00~		
	9月6日	木	入学者希望参 観② 職員会議13: 30~	保育(一 部) 保育参加	○はとぼっぼのたいそう練習(鍋山) ●領域研究・人間関係	14:30~15:00 15:00~		
	9月7日	金	午後保育日 視力検査(5 歳児) みどり会理事 会	保育(一 部) 保育参加	○家庭との連携、保健・安全指導に ついて(鍋山) ●第2週保育内容について ●領域研究・健康	14:30~15:00 15:00~		
	9月8日	土						
	9月9日	日	救急の日					
2	9月10日	月	午後保育日 教育講演会12 :30~14:00 ふれあい実習 (1年)	保育(一 日)	○親子ダンス案披露 ●領域研究・表現	14:30~15:00 15:30~	第1週記録 第2週計画 提出 教育講演会 参加	
	9月11日	火		保育(一 日)	○安全点検(鍋山・居上) ○行事教育-運動会・園外保育につ いて(鍋山)	13:30~14:30 14:45~15:15		
	9月12日	水	模範保育兼研 究保育(川組 :杉山)	観察参加	○模範保育説明・協議 ○研究保育者決定・評価保育日程に ついて(鍋山)	13:30~15:00 15:00~15:30		

	9月13日	木	聴力検査（5歳児）	保育（一日）			
	9月14日	金	午後保育日 水質・一般環境検査	保育（一日）	●第3週保育内容・評価保育について	14:30～	
	9月15日	土					
	9月16日	日					
3	9月17日	月	敬老の日				
	9月18日	火	入園希望者参観③	保育（一日）	○研究保育案作成	13:30～14:30	第2週記録 第3週計画提出
	9月19日	水	午後保育日	保育（一日）	○研究保育案作成（印刷・環境準備） ●評価保育①指導案作成	14:30～15:30 15:30～	
	9月20日	木	学校安全の日 実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会 ●評価保育①指導案作成（印刷・環境準備） ●評価保育②指導案作成	13:30～15:00 15:00～	
	9月21日	金	午後保育日 実習生評価保育①	保育（一日） 評価保育①	●評価保育①反省会 ●第4週保育内容について ●評価保育②指導案作成（印刷・環境準備）	14:30～15:30 15:30～16:00 16:00～	
	9月22日	土					
	9月23日	日	秋分の日				
4	9月24日	月	振替休日				
	9月25日	火	実習生評価保育②	評価保育②	○園外保育準備 ●評価保育②反省会	13:30～14:30 14:30～15:30	第3週記録 第4週計画提出
	9月26日	水	園外保育（芋掘り）	行事参加 保育（一日）			
	9月27日	木	入園希望者参観④	保育（一日）			
	9月28日	金	午後保育日 主免教育実習終了 （園外保育予備日）	保育参加	●教育実習反省会	14:30～15:30	
	10月6日	土	運動会				
	10月7日	日	運動会予備日				

資料 6-② 自己評価観点表

評価観点	第一週	第二週
幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。</li> <li>・ 自分のかかわった幼児を中心に、遊びの様子やエピソードを記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。</li> <li>・ 幼児の行為（現象）について記録し、その意味について考察する。</li> <li>・ 一人一人の幼児の発達の状況と指導の重点について記述し、幼児理解を進める。</li> </ul>
環境の構成と指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導教員の保育を観察し、環境の構成や具体的な指導について記録し、基本的な保育の構えと意味について理解する。</li> <li>・ 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。</li> <li>・ 教育課程と指導計画について理解を進める。</li> <li>・ 一部保育場面についての指導案を作成し、指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程と指導計画の関連について考察しながら、一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し、指導を行う。</li> <li>・ 幼児の実態（興味や関心、発達の状況など）について研究しながら、実際に環境の構成を行い、その結果について考察する。</li> <li>・ 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。</li> <li>・ 園外保育の下見、指導案の作成、指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項、危機管理について理解する。</li> </ul>
幼児とのかかわり (指導の実際)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導教員の保育の実際について観察し、保育後のカンファレンスに参加する。</li> <li>・ 自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の実態（興味や関心、発達の状況など）についての読み取りと、実際の指導、幼児の反応や活動を相互に関係付けながら省察する。</li> <li>・ 自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。</li> </ul>
保育評価と省察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導教員の保育の記録をとり、教師の意図や幼児との応答の様子、幼児の活動の変化について考察する。</li> <li>・ 幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身の保育の記録をとり、環境の構成、教師の意図、幼児との応答の様子、幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。</li> <li>・ 幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。</li> </ul>
学級経営と学級事務の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け、それについてのディスカッションを行う。</li> <li>・ 学級事務についての考え方について説明を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導教員と共に学級事務にかかわりながら実務を体験する。</li> <li>・ 保健・安全指導について養護教諭並びに担任から講話を受ける。</li> <li>・ 人権教育について講話を受け、ディスカッションの中で課題を意識化させる。</li> <li>・ 家庭との連携について講話を受け、幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。</li> </ul>
自己評価観点の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己課題をもって保育ができたか。</li> <li>・ 一人一人の幼児についてどのように理</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育観察，講話，ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。</li> <li>・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲，態度であったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育観察，講話，ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。</li> <li>・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲，態度であったか。</li> </ul>
---	---

### 【分析結果と根拠理由】

今年度も、幼稚園における幼児との直接的なかかわりの過程をとおして、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。今年度の実習生は、保育に対する思いが強く、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、全てにおいて一生懸命取り組むことができていた。実習の質に伴って教職員の指導もより高い実践的能力や研究態度を目指すことができた。子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図れた実習となった。

また、研究保育，評価保育等，大学から担当教員が園に来てくださり，実習を観ての指導も頂いている。大学側からの意見や質問もあったり，激励にもなったりと実習の充実に繋がっている。

教育実習とは別に，幼年発達支援コースとの自然プロジェクト（フレンドシップ事業による）のボランティアとして学生が保育参加する中で，より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ，実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり，保護者からも多くの支持を得た実習であった。

#### 資料 1－② 平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

－ 教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください －

- ・ 教生さんは「夢を持ってそれに向かってがんばっている大人のモデル」として子どもたちによい影響を与えてくれています。
- ・ しっかりと子どもたちに関わってくれている。
- ・ とても一生懸命に取り組んでいる。
- ・ 子どもに近い目線での関わりがありがたい。
- ・ 短い期間で，幼児一人一人に目を向けるのは難しいとは思いますが，つまづいている場面やうれしい場面等に気付いてあげられるようがんばって欲しいです。
- ・ いつも笑顔で優しい対応をしてくれた。
- ・ 実習最後に手作りのプレゼントをいただき感動した。忙しい中，心を込めてくれて親もうれしかった。

別添資料 1－③ 平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書

## (2) 優れた点・改善を要する点

### 【優れた点】

ふれあい実習、観察実習の実施、ボランティアでの保育参加により教育実習に参加する前に、実際に園や子どもの様子を見ることで教育実習のスタートがスムーズにきれている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。

学級配当は実習生の希望も考慮して配属した。そのことによって、教員の指導も細かくできるようになった。また、手書きの指導案作成を見直し、パソコンの使用も認めるなど、効果的な時間の使い方ができるよう改善した。

教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身につけようと一生懸命実習に取り組み子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図られ、多くの成果が得られた実習となった。

配属された年限での指導が深まるように配慮し、領域研究の中に各学級での教材研究の実践が図れるようにした。(6-① 実地教育計画表参照) その結果、1日の保育を振り返り反省する時間や、翌日以降の保育計画立案にあてる時間が十分に確保され、保育指導案の内容がとても良くなった。

大学の教員及び附属学校校長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校園との連携を図っている。

### 【改善を要する点】

・保育指導案・資料作成等について、実習生が効率的に作成できるような環境づくりが必要である。

## (3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

## III 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資 料 名
1	1-①	平成30年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	1-③	生活プラン (2014.8.1 発行)
2	1-②	平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	2-①	ほけんだより2月号 (2018.2.1 発行)
	2-②	平成30年度安全管理計画-危機管理マニュアル
4	1-③	生活プラン (2014.8.1 発行)
	4-①	平成30年度幼児教育研究会要項 (2018.8.26 発行)
5	1-①	平成30年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	5-②	平成30年度教育関係者によるアンケート集計結果
6	1-③	平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書